

山口県済生会下関総合病院

○谷口裕子

看護師は慢性腎臓病保存期、腎代替療法（血液・腹膜透析、腎移植）選択時期、透析療法導入～維持、終末期と多岐にわたり患者・家族とかわる機会が多い。その各々の時期において、患者・家族を支えるために重要なポイントがある。一生涯透析治療を必要とする患者に対して、寄り添い、安心・安全に透析治療を行い、また、QOLを維持・向上するように心身ともにサポートすることも重要な役割である。

透析患者の高齢化に伴い、約3分の2を占める高齢透析患者は様々な問題を抱えている。例えば、療法選択の自己決定、自己管理サポートに関する問題、フレイルや認知症による通院介助・介護などの問題、医療費・介護費などの経済的問題、余命をどのように生きるかという終末期医療の問題など。透析を生活の中に取り入れながら、その人らしく生きていけるよう、患者それぞれに合わせたケアが求められていると日々感じている。

今回、高齢独居患者が腹膜透析を選択した事例、血液透析から在宅血液透析に移行することを選択した事例、通院困難となり転院調整をした事例、当院で実施している運動などを紹介し、患者・家族の思いに寄り添う透析療法継続のサポートを考えたい。

山口県内の透析施設にアンケート調査（施設の患者状況、通院に関すること、療法説明について、他施設との連携など）を行った結果も報告する。